

氏名	水谷 繁 樹		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博 乙 第 2231 号		
学位授与の日付	平成 3年 3月 28日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	Experimental liver cysts induced by 2-Acetylaminofluorene (2-Acetylaminofluorene 誘発ラット実験肝嚢胞の作製)		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 赤木忠厚	教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝嚢胞の形態は、ラットに化学発癌物質の0.02% 2-Acetylaminofluorene 混入飼料を6週間投与後、42週間基礎飼料を投与した実験モデルで、詳細に研究した。嚢胞は、12週間目に門脈域に認められ、この時期に肝内胆管も増殖し拡張していた。拡張した胆管は海綿状または多房性であり、胆管拡張と嚢胞形成の過度期を表現しているように思えた。20週後には、嚢胞は大多数のラットに認められた。肝嚢胞の数も大きさも、次第に増加した。肝表面の嚢胞は、40週後に大きなもので直径15mmで、嚢胞数は20個までになった。このモデルでは、癌及び肝硬変は認められなかった。経静脈注射されたインドシアニングリーン色素は、嚢胞内に集積しなかった。このことは、嚢胞と胆管との交通がないことを意味する。走査電子顕微鏡により、肝嚢胞が数個の交通した内腔より成り、多数の微絨毛と一本の中心線毛を持つ肝内胆管上皮と類似の上皮に覆われていることを証明した。これらの観察により肝嚢胞が胆管由来であることを示唆する。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はラットに化学発癌物質の0.02% 2-Acetylaminofluorene 混入飼料を投与後に生じた肝嚢胞の形態を走査電子顕微鏡などにより研究したもので肝嚢胞は肝内胆管上皮と類似の上皮に覆われていることを証明したものである。これは肝嚢胞が胆管由来であることを示唆する価値ある業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。